

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	104人	算数	104人	理科	104人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	106人	算数	106人	理科	106人
------	----	------	----	------	----	------

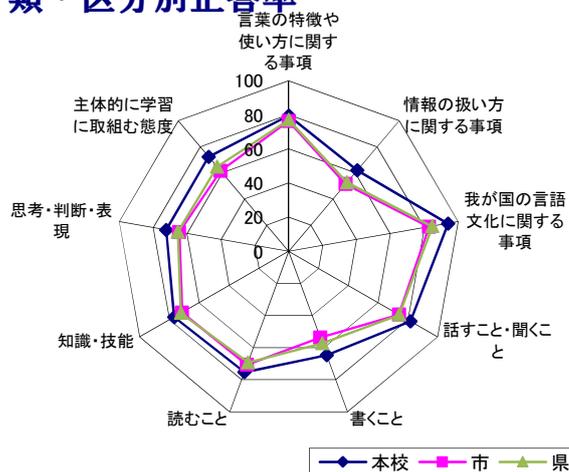
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.6	76.4	77.0
	情報の扱い方に関する事項	62.0	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	94.0	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	81.7	74.1	74.2
	書くこと	64.7	53.7	57.2
観点	読むこと	75.3	70.7	69.2
	知識・技能	76.9	71.6	72.3
	思考・判断・表現	72.3	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	72.4	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

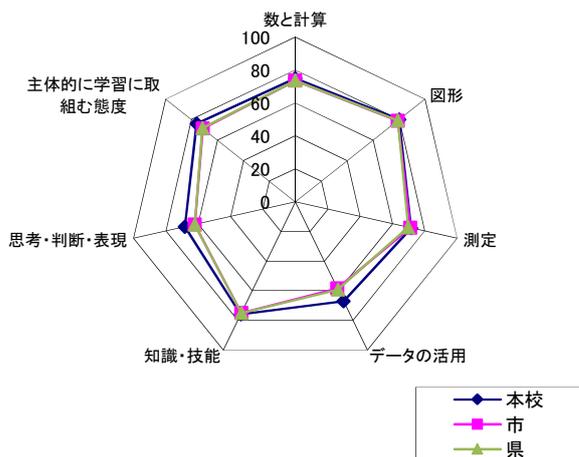
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を書いたり、読んだりする問題では、市や県の平均をどれも上回っている。 ○段落の役割についての理解し文章を書く問題では、市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読む問題では、県の平均を5.4ポイント下回っている。市の平均を3.5ポイント下回っている。	・わくわく漢字チャレンジテストやミニテストを継続的に行ってきた成果が表れている。今後も定期的を実施し、知識の定着を図る。 ・ローマ字については繰り返し学習やタブレット端末の活用をすることでさらに定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	○国語辞典の使い方を問う問題では、県の平均を6.5ポイント、市の平均を7.5ポイント上回っている。 ●調べたことをもとに文章にまとめる問題では、市や県の平均を上回ってはいるものの、校内の平均正答率は44.0%と低い。	・家庭と連携したり、地域学校園の辞書引き学習をしたりし、継続的に取り組んでいく。 ・字数制限の中で文章をまとめたり、自分の考えを簡潔にまとめたりする活動を適宜取り入れ、文章の構成について理解を深めるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんやつくりを答える問題では、校内の平均正答率が94.0%であり、高い正答率である。	・漢字の練習をする際に、言葉の意味を捉えたり、読み替えの漢字を学習させたりすることで、さらに定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことについては、市や県の平均をほぼ上回っている。 ・特に話し手の工夫を捉える問題では、県の平均を9.2ポイント、市の平均を8.4ポイント上回っていた。 ・話し手が伝えたいことの中心を捉える問題や自分考えを理由を上げながら話す問題では80%以上の正答率であった。	・相手に伝わるような話し方について、実際に経験してみるなど、学習の中で経験を積ませていく。 ・相手の伝えたい内容や、話の中心を捉えて聞く練習を適宜行い、聞く力を高めていく。
書くこと	○書くことについては、市や県の平均を上回っている。 ・特に自分の考えを明確にして文章を書く問題では、校内の平均正答率が88.0%であった。 ●情報を比較分類し、伝えたいことを明確にして書く問題では、県の平均を8.6ポイント、市の平均を8.3ポイント上回っているものの校内の平均正答率は44.0%と低い。	・自分の考えを的確に述べられるよう、発想力や語彙力を高める学習に取り組ませる。 ・様々な文種に触れさせ、文章の構成の特徴を踏まえて書く機会を多くする。
読むこと	○文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題では、校内の平均正答率は90.0%と高く、市や県の平均をやや上回っている。 ●説明文の段落の内容を捉える問題では、県や市の平均とほぼ同等ではあるが、校内の平均正答率は44.0%と低い。	・説明文では、段落ごとの内容や段落と段落のつながりについての学習を重点的に行うなど、内容理解を図る。 ・読書活動などを継続的に行い、様々なジャンルの文章に触れる機会を設ける。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.0	73.5	73.6
	図形	80.0	79.0	79.1
	測定	71.6	71.1	69.8
	データの活用	67.0	58.4	59.2
観点	知識・技能	75.9	75.0	75.0
	思考・判断・表現	68.3	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	76.1	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

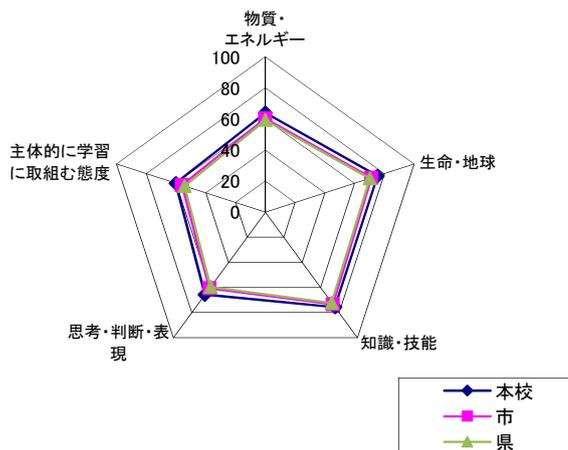
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○県の正答率を10ポイント以上上回っている問題は2つあり、除法の文章問題と、除法の余りを切り上げて処理する問題におけるその理由の説明記述問題である。</p> <p>●整数-小数第一位の計算は、正答率49.0%で、県の54.3%を5.3ポイント下回った。</p>	<p>・3 小数のしくみ と 4 小数の相対的な大きさ の問題の正答率が高いにも関わらず、12 整数-小数第一位 の計算の正答率が低い。小数が整数と同じ仕組みでできていることと相対的な大きさの理解を深め、正しく計算ができるようにする。</p>
図形	<p>○正三角形を作図する問題では、正答率が93.0%で、県の正答率を5.2ポイント上回った。</p> <p>●球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める問題では、正答率が68.0%で、県の正答率を5.2ポイント下回った。</p>	<p>・円や球の半径や直径の関係についての学習では、図や模型を用いて説明することで、語句の意味を視覚的にも理解させるようにする。また、問題に取り組む際には、示された条件を図に書き込む、見えない部分を付け足す、図形を分解して描き出すなど、いろいろな解き方に触れさせるようにする。</p>
測定	<p>○はかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求める問題では、正答率が64.0%で、県の正答率を6.2ポイント上回った。</p> <p>●道のりの意味を理解しているかの問題では、正答率が87.0%で、県の正答率を1.1%下回った。</p>	<p>・道のりを求めるときは、距離の求め方と間違わないように用語の意味や正しい計算の方法を丁寧に指導する。</p>
データの活用	<p>○棒グラフの1めもりの大きさに着目して間違いを指摘する問題では、県の平均正答率を12ポイント上回った。問題として与えられたデータを比較し、間違いの理由を考えることがよくできている。</p> <p>●複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取ることに、少し課題がみられる。</p>	<p>・身の回りの数値をグラフ化する活動を行い、グラフを作成する際のポイントを体験から十分に意識づける。</p> <p>・考えたことを言葉や数を使ってまとめることを日常的に行い、数値に慣れさせる。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.9	60.2	59.2
	生命・地球	75.4	71.3	70.3
観点	知識・技能	75.7	73.4	72.3
	思考・判断・表現	65.7	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	60.2	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○ものの重さに関して実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する設問では、県の平均正答率を14.9ポイント上回った。</p> <p>○容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使われている理由を実験の結果から推測し説明する設問では県の平均正答率を13.5ポイント上回った。</p> <p>○実験の結果の表からゴムで動く車が動く距離を推測する設問では県の平均正答率を11.8ポイント上回った。</p> <p>●磁石につく物とつかない物を問う設問では、県の平均正答率を5.2ポイント下回った。</p> <p>●磁石の極を確かめる方法を構想する設問では、県の平均正答率を9.9ポイント下回った。</p>	<p>・実験の予想が正しいとした場合に得られる結果を推測した上で実験を進めることは主体的に実験に取り組む上で大切な活動であり今後も大切にしていきたい。</p>
生命・地球	<p>○虫眼鏡の正しい使い方や方位磁針の正しい使い方を問う設問では、それぞれ県の平均正答率を約15ポイント上回った。過去に正答率の低い設問であり、指導の改善を図ってきた効果が表れてきたと思われる。</p> <p>○植物の記録カードの内容をもとに、共通点や差異点を見出す設問では、県の平均正答率を10.4ポイント上回った。</p> <p>●昆虫の体のつくりについて問う問題では、県の平均正答率を8.1ポイント下回った。</p>	<p>・実験器具の操作に関しては、今後も意識して繰り返し指導を行い、さらに定着させていきたい。</p> <p>・比較して差異点や共通点をもとに問題を見出す力は3年生で育てる重要な問題解決の力であり、さらに伸ばしていきたい。</p> <p>・昆虫や植物の観察に関しては、実感を伴った理解を図るため、観察時間の確保とともに、観察の目的を明確にすること、観察対象の数を十分に確保するなどの工夫を図っていく。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的割合が市・県より上回っており、継続的にを行い、考えを広げることができるようにしていきたい。

○「先生は学習のことについてほめてくれる」や「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合が市・県を上回っていることから、学習のしやすい場が醸成されていることが推測されるので、継続していきたい。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している」という回答の肯定的割合が、市と県を上回っていることから非認知能力の高いことが伺える。

○「自分も持っている能力を十分に発ぎしたい」や「しょう来のゆめや目標をもっている」や「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」や「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的割合が市や県を上回っていることから、将来や社会について関心が高いことが伺える。

●「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に1日にどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゆくや家庭教師もふくみ)。」の回答が1時間より少ない割合が43ポイントで市、県平均より下回っている。土日祝の学習を習慣づけるよう学年だよりを利用するなど、普段から喚起していきたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日どれくらいの時間、読書をしますか」の「全くしない」の回答が県と市よりも5ポイント以上上回っている。国語の授業で本の良さを伝えたり、並行読書を進めたり、図書室利用の機会を増やしたりして、本を読むきっかけを作していきたい。

●「勉強して、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」の肯定的回答が市と県より上回っていて8割程度だが、勉強に対する関心が高いことが伺えるが、「ぎ問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定的割合が6割程度で、不思議や疑問に思うが調べたいという意欲が湧かない児童がいるため、発問の仕方や、教材教具の提示の仕方などに工夫して取り組んでいきたい。

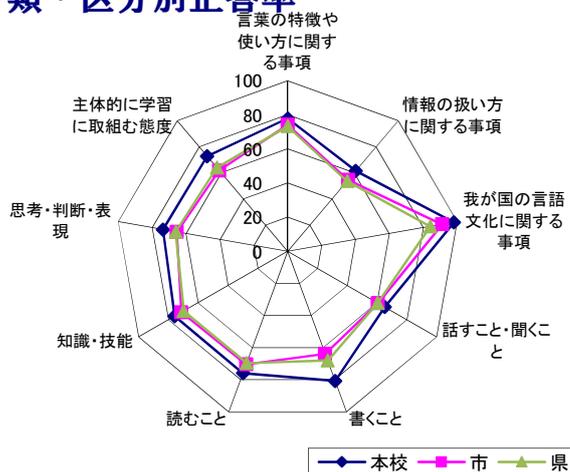
●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定的回答が、市、県より下回っているため、振り返りの時間を設けるようにし、児童の理解度や定着度を高めるよう努めていきたい。

●「ふだん(月～金曜日、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームをのぞく)。」と「ふだん(月～金曜日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか」の回答から情報メディアにかかわる時間が非常に多いことがわかる。正しい使い方を学年だよりなどで啓発していきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.9	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	61.6	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	98.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	65.1	60.6	60.4
	書くこと	80.7	63.8	68.0
観点	読むこと	75.9	70.4	69.6
	知識・技能	75.9	71.3	69.9
	思考・判断・表現	73.6	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	72.8	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

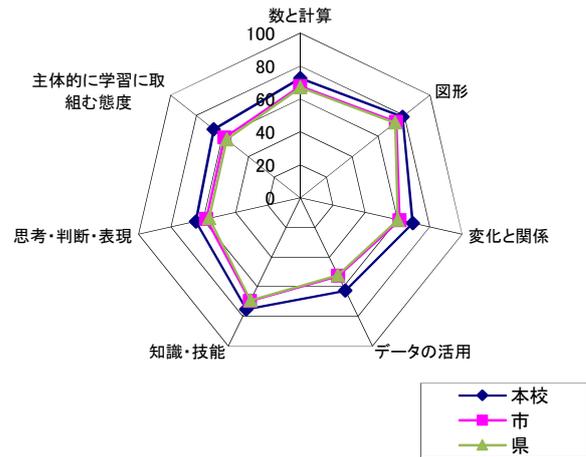
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の書きが市の平均を5ポイント以上上回っている。 ●連体修飾語についての理解が県の正答率を4ポイント下回っている。	・文章を構成している主語・述語・修飾語など文法に関する問題を授業で積極的に取り入れるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○漢字辞典の使い方に関する問題の正答率が県の平均を10ポイント以上上回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉える問題の正答率は県と市の正答率を上回っているが、正答率としては45.7ポイントと低い傾向にある。	・段落ごとの要点をまとめたり、全体の構成を捉えたりする活動をノートや、ワークシートに可視化して情報を整理する場面を積極的に取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を理解して正しく使う設問では県の平均を14ポイント、市の平均を7ポイント上回っている。	・今後もことわざや慣用句、故事成語について意味を理解するだけでなく日常の出来事とつないだり引用して書いたりする経験を重ねていく。
話すこと・聞くこと	○話の中心を明確にするための話し合いの工夫を捉えることは県を7ポイント上回っている。 ●話し手の伝えたいことの中心を捉えることは県や市と同等かやや下回っている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い意見の相違点に着目して考えをまとめることも県や市と同等かやや下回っている。	・国語で学習したことを日常の話し合いで生かせるように助言していくと共にミニ学級会を見合う活動などを通して、意見の共通点や相違点を端的にまとめて司会の役割を果たす力を育てていく。
書くこと	○文章を書く設問では、県の正答率を上回っている。特に、アンケート調査の結果から読み取ったことを書くことでは、県の正答率を14.2ポイント上回っている。	・授業中や朝の学習活動等で主題を決め、それについて書く時間を確保して、的確な文書を書けるように指導・支援していく。
読むこと	○説明文の内容を読み取る設問では、県の正答率を上回っている。特に、叙述をもとに文章の内容を捉える問題では、9.4ポイント上回っている。	・読書の時間帯を活用して、本の紹介をするなど、物語文に親しみ、読解力を伸ばしていけるようにする。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.6	67.8	67.0
	図形	78.9	73.9	73.1
	変化と関係	69.5	61.4	60.2
	データの活用	62.6	52.7	52.1
観点	知識・技能	75.2	69.7	69.2
	思考・判断・表現	64.6	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	66.8	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

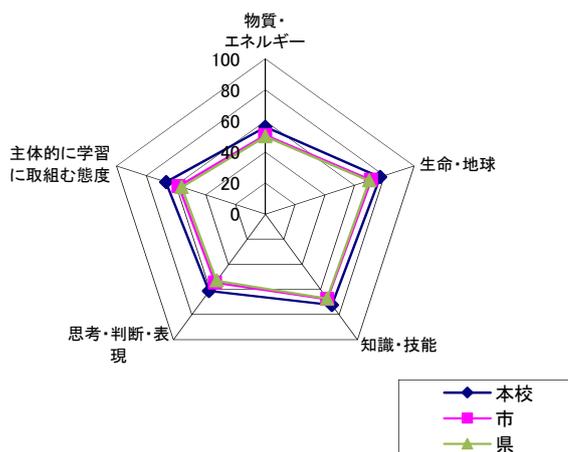
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均を5ポイント近く上回った。</p> <p>○整数、分数の大小の比較がよくできており、小数第一位×整数の計算では、概ね計算方法を習得できた。基準量を求めるための計算では、積極的に絵や数直線を用いていたので除法の立式が比較的よくできている。</p> <p>●除法の計算の仕方を工夫したり暗算をしたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、様々な問題に対して思考していく中で図や数直線など自分にとってわかりやすい方法を用いて立式していくことを支援していくようにする。</p> <p>・除法の計算においては、四則計算の基本を踏まえながら数の組み合わせを柔軟に考えられるよう数多くの問題に取り組ませていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均を5ポイント上回った。</p> <p>○直方体の平行な辺を正確に答えたり、コンパスを使ってひし形を正確に作図したりすることができた。</p> <p>●1000円札1枚のおおよその面積を求める問題では、市の平均を3ポイント下回った。</p>	<p>・今後も、実際に1m定規を組み合わせ1cmのフレームを作成したり、面積の問題では図形を切り離したり組み合わせたりしながら柔軟に思考させるなどの実践的な活動を数多く取り入れるようにする。</p> <p>・普段の学校生活において算数的思考を促すために家庭用風呂と学校のプールの体積を比較させたり、1000円札と同等大きさの紙を実測させたりなどの算数的活動を実践する。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は県の平均を約8ポイント上回った。</p> <p>○図を使って基準量を求めるための除法の立式をする問題では、市の平均正答率を10.6ポイント上回った。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では市の平均を12.3ポイント上回った。図や表を使って式に表したり、数量の関係について考えたりする学習の成果が表れている。</p>	<p>●基準量と比較量から求めた割合を比較して、そこから分かったことを説明する問題は、正答率が49.5%と低かった。立式する能力は高いが式や言葉を用いて記述する力を身に付けさせるため図や数直線をはじめ場合によっては、実物なども準備し具体物に触れさせながら思考させていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は県の平均を約10ポイント上回った。</p> <p>○棒グラフと折れ線グラフの複合的なデータを正しく読むことができている。また、誤った答えを指摘しその理由を解説する問題では市を11.9%上回り、データに基づく考えを記述することもできている。</p> <p>●単純な折れ線グラフの読み取りの正答が、76.2%と8割に達していなかった。</p>	<p>・今後も、表やグラフのデータを正しく読み、分析的に扱う授業を行い、自分の考えや意見を記述する学習を充実させる。</p> <p>・正答に達しない2割の児童には、中学年の内容を復習させるとともに、類似問題を準備し学習の補充を図る。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.1	50.8	50.0
	生命・地球	77.1	71.1	69.8
観点	知識・技能	72.4	67.6	67.2
	思考・判断・表現	61.1	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	66.7	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○実験の結果から体積変化について考察する設問では、県の平均正答率を15.5ポイント上回った。</p> <p>○既存の知識をもとに説明する設問では、県の平均正答率を12ポイント上回った。</p> <p>●予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する設問では、県の平均正答率を7ポイント下回った。</p>	<p>・多くの設問で県の平均を上回ることができ、特に、実験結果をもとに考察して説明する力に長けている。引き続き、自分の意見を記述したり発表したりする機会を設けたい。</p> <p>・予想が正しいとした場合に得られる結果を推測する力が不十分なため、実験をする際には、予想から結果を推測する機会を増やしていきたい。</p>
生命・地球	<p>○グラフを読み取り説明する設問では、県の平均正答率を14.5ポイント上回った。</p> <p>○グラフから変化を判断し、理由を説明する設問では、県の平均正答率を16.8ポイント上回った。</p> <p>○土の粒の大きさと水はけの関係を指摘する設問では、県の平均正答率を19.5ポイント上回った。</p>	<p>・多くの設問で県の平均を上回ることができ、特に、既存の知識をもとに、自分の生活に活用する力に長けている。引き続き、生活に活用することを意識した指導をしていきたい。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何冊くらい本を読むか」の質問では、県・市町村に比べて、11冊以上本を読む人の割合は28.6%と高い割合を示した。また、1冊も読まない人の割合は6.7%と少ないことから、全体的に見ると読書をしていることが分かる。今後も、朝の読書や国語の授業などを通して、本に触れる機会を設け、たくさんの本を読めるよう働き掛けていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の質問では、肯定的回答の割合が80.9%と、県・市町村に比べて高い割合を示している。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の質問では、はいと回答している人の割合が76.2%と高い割合を示した。このことは、児童一人一人が、自分の考えをもちながら主体的に授業に参加している表れだと思われる。

○「学校の決まりを守っている。」の質問では、肯定的回答の割合が97.2%ととても高い割合を示した。決まりを守りながら落ち着いた学校生活を送っている表れだと思われる。

○「誰に対しても、思いやりの心をもってせっている。」の質問では、はいと回答している割合が62.9%で、県・市町村に比べて、15ポイント以上高い割合を示している。今後も引き続き思いやりの心を育てていきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」や「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」の質問では、はいと回答している割合が県・市町村に比べて5ポイント以上低くなっている。今後は、社会の出来事に児童が目をつけるような投げかけを行いながら、継続的な指導に努めたい。

●「授業で自分考えを文書にまとめて書くことはむずかしい。」の質問では、肯定的回答が県・市町村を上回っている。書く力を高めるため、国語の読み取り学習に力を入れたり、いろいろな教科で自分の考えを書く場面を設けたりして、自分の考えを書く経験を積ませたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実に行うための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などのカードを各教室の黒板に準備し、どの授業でも活用できるようにしている。 ・「板書見せ合いの日」を設定し、互いに見せ合い、参考にする機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の中で、目標がしめされている」の設問で、肯定的回答した児童が4年生は88.0%、5年生は95.3%で、どちらの学年でも市や県の平均を上回った。 ・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問で、肯定的回答した児童が4年生は62.0%、5年生は75.2%でどちらの学年でも市や県の平均を下回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内で宿題の量や家庭学習の仕方をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスに紹介する。 ・保護者が自主学習ノートを確認する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の予習や復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」の設問で、肯定的回答した児童が、どちらの学年でも市や県の平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙調査の結果で「授業の内容がよく分かるか」という設問で市や県平均を下回るものがあった。	教員それぞれの専門性を生かした教科担任制の取組。	各教科等の授業において、教科主任を中心として教材研究を深め、授業力向上と児童の学力向上を図る。